補足資料３

事 後 評 価 対 象 事 業
パワーポイント説明資料

小名浜港 ５・６号ふ頭地区 多目的国際ターミナル整備事業

○ 小名浜港の概要

【位置図】

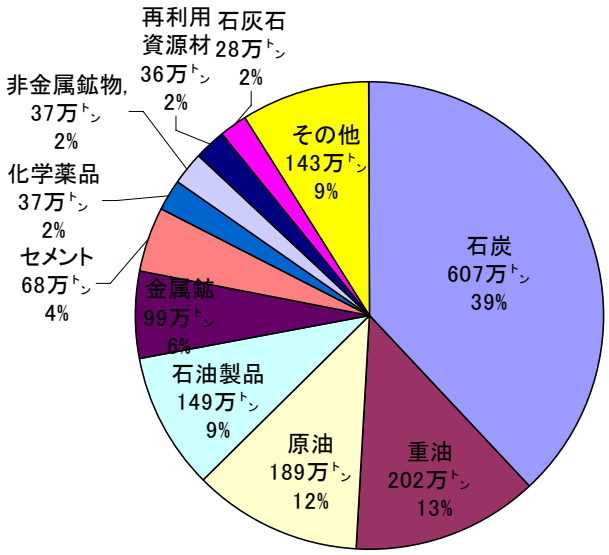


・臨海工業地帯を支える重要港湾（S26年指定）
・石炭火力発電所などエネルギー供給基地
・東京～仙台間の重要な避難港

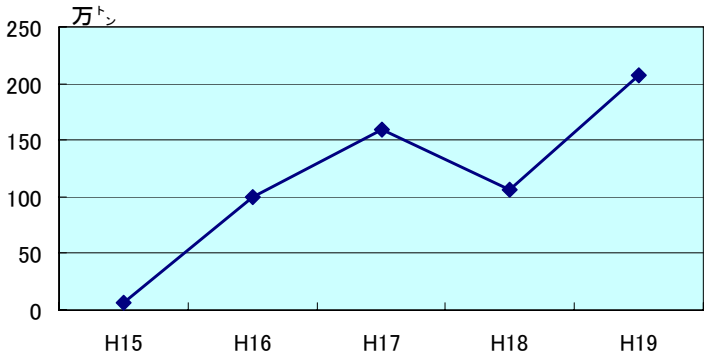


○小名浜港の取扱貨物

H19年取扱貨物量：1,595万トン



５・６号ふ頭取扱貨物量経年変化
（石炭、金属鉱）



５･６号埠頭取扱貨物量
（計　画）140万トン

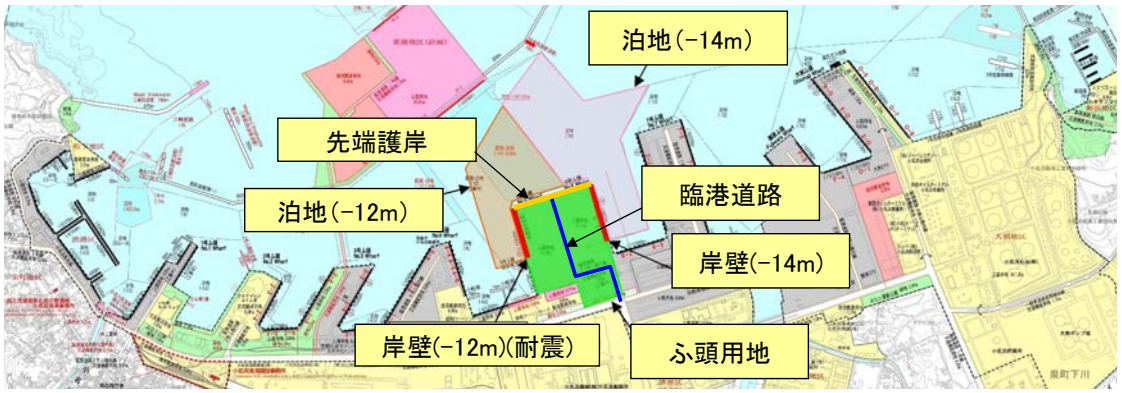
⇩

（H19実績）207万トン

○事業目的及び事業概要

【目的】・石炭や金属鉱等の増加に伴う岸壁能力不足への対応
・大規模地震時の緊急物資輸送拠点の確保

国	岸壁(−12m)(耐震):240m、泊地(−12m):16ha 岸壁(−14m):280m、泊地(−14m):34ha 先端護岸:450m	142億円	H6～H13年度
県	臨港道路:650m、ふ頭用地:12ha、 荷役機械:2基	44億円	H9～H19年度
合計		186億円	



3

○便益の考え方

◆陸上輸送コスト便益

石炭(代替港:石巻港)　170km → 50km : 120km減
金属鉱(代替港:相馬港)　132km → 1km : 131km減

⇨ 陸上輸送距離の減による輸送コスト削減

◆震災時輸送コスト便益

緊急輸送物資(1ヶ月間)、岸壁復旧までの間(2年間)

陸上輸送距離(代替港:相馬港)

緊急輸送物資　132km → 1km : 131km減
金属鉱　132km → 1km : 131km減

⇨ 陸上輸送距離の減による輸送コスト削減

◆施設被害回避便益

⇨ 施設復旧の回避によるコスト減

4

○費用便益分析結果

	事業全体の投資効果
B:便益(現在価値化後)[億円]	2,478
C:費用(現在価値化後)[億円]	274
費用便益比(CBR)B／C	9．1
純現在価値(NPV)B－C[億円]	2,205
経済的内部収益率(EIRR)[%]	18．9

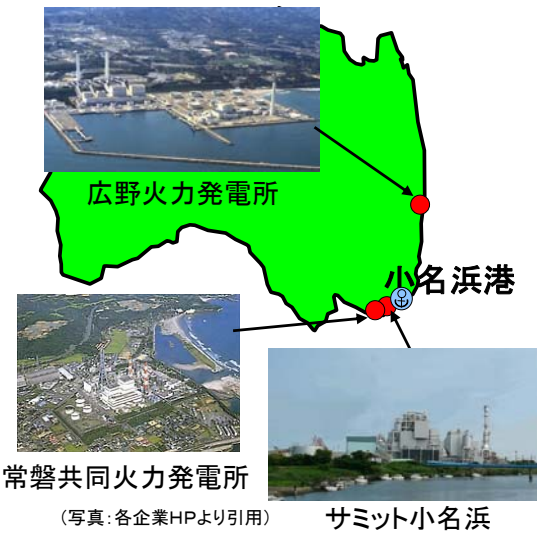
○定性的に把握する効果

・環境負荷の低減(CO_2及びNO_X削減)

5

○社会情勢等の変化

火力発電所の設備増強等により、
今後も石炭等貨物が増加



常磐共同火力発電所

(写真:各企業HPより引用)

サミット小名浜

○これまで

H16　常磐共同火力発電所ミル増設
→ 100万ﾄﾝ/年増
広野火力発電所5号機運転
→ 125万ﾄﾝ/年増
サミット小名浜エスパワー運転
→ 18万ﾄﾝ/年増

H18　クレハ石炭燃料施設運転
→ 20万ﾄﾝ/年増

H19　IGCC実験開始(～H22)
→ 30万ﾄﾝ/年増

○今後(予定)

H24　小名浜火力発電所1号機運転
→ 50万ﾄﾝ/年増

H25　広野火力発電所6号機運転
→ 125万ﾄﾝ/年増

○対応方針（原案）

改善措置及び今後の事業評価の必要性はない。
(理由)取扱貨物量が順調に推移

6